

VIII 看護職の業務実態

1) 費やす時間の多い業務

看護職がどのような業務に多くの時間を割いているかは、施設によって違いがある。最も多くの時間を使っている業務としては、「日常的な医療処置」をあげるところが最も多く約4割。次いで「入居者の健康状態の把握」(35%)、「薬の分包・与薬」(15%)の順である(表55)。

看護職員1人あたり入所定員が多い(28.1人以上)施設では、1位が「入居者の健康状態の把握」、次いで「日常的な医療処置」と、順位が入れ替わる。「生活援助」をあげる施設は全体的には少ないが、看護職員1人あたり入所定員が少ないほど、その比率は高い(図49)。

表55 費やす時間の多い業務

(次にあげる看護職員の1日の業務を、看護職員全体として費やしている時間の多い順に並べて下さい。平均的な1日についてお答え下さい。)

	1位にあげたもの		3位までにあげたもの [複数回答]	
	人数	割合	人数	割合
入居者の健康状態の把握*	309	35.1	743	84.7
薬の分包、与薬	133	15.1	621	70.8
日常的な医療処置**	358	40.6	767	87.5
生活援助***	48	5.4	253	28.8
入居者との会話	6	0.7	69	7.9
記録、申し送り、打ち合わせ、カンファレンス	23	2.6	174	19.8
無回答	4	0.5	-	-
計	881	100.0	2627	299.5
有効回答施設数	-	-	877	100.0

* 部屋をまわってバイタルサインのチェックなどを行う

** 注射、点眼、浣腸、褥創処置、湿布、チューブ類の交換、検体採取など

*** 食事、排泄、清潔保持などの援助

2) 減らしたい業務、増やしたい業務

費やす時間の多い業務は上記のとおりであるが、看護職は現実の業務時間配分に満足している訳ではない。回答者の考えとして、時間をとられすぎているので減らしたい業務の第1位は「薬の分包・与薬」、次いで「入院・通院の付き添い」、「日常的な医療処置」の順である。逆にもっと時間をかけたい業務の第1位は「入居者との会話」、次いで「看護職員自身の研修」、「入居者の健康状態の把握」、「急性期・末期の入居者の世話・観察」、「レクリエーション・リハビリテーションへの参加」の順である(表56)。

費やしている時間の多い業務上位3つまでに「日常的な医療処置」をあげた施設は87.5%、「薬の分

図49 費やす時間の最も多い業務、看護職員1人あたり入所定員別

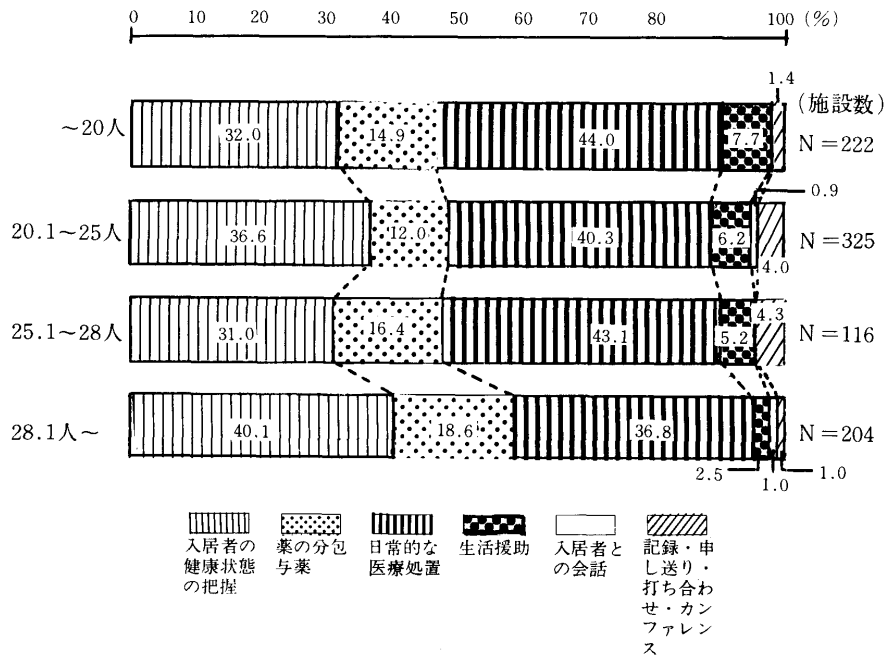


表56 増やした業務、減らしたい業務 [複数回答]

(次にあげる業務のうち、あなたの考えとして、貴施設の看護職員全体として、時間をとりすぎているので減らしたいと思うもの、逆にもっと時間をかけたいと思うものを、各々順に3つまであげてください。)

業務	減らしたいもの上位3つ		増やしたいもの上位3つ	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
入居者の健康状態把握*	18	2.4	358	43.5
薬の分包・与薬	587	79.0	5	0.6
日常的な医療処置**	267	35.9	22	2.7
回診時の診察介助	65	8.7	31	3.8
入院通院のつきそい	461	62.0	16	1.9
急性期・末期の入居者の世話・観察	34	4.6	196	23.8
生活援助***	77	10.4	130	15.8
レクリエーション・リハビリテーションへの参加	73	9.8	176	21.4
入居者との会話	1	0.1	621	75.5
家族への対応・外部機関との連絡調整	87	11.7	38	4.6
在宅福祉サービスへの参加****	46	6.2	86	10.4
記録・申し送り・打ち合わせ・カンファレンス	123	16.6	141	17.1
施設内の職員への指導・助言・教育	18	2.4	138	16.8
看護職員自身の研修	16	2.2	402	48.8
その他	27	3.6	1	0.1
計	1900	255.7	2361	286.9
有効回答施設数	743	100.0	823	100.0

* 部屋をまわってバイタルサインのチェックなどを行う
 ** 注射、点眼、浣腸、褥創処理、湿布、チューブ類の交換、検体採取など
 *** 食事、排泄、清潔保持などの援助
 **** 介護教室、ディケア、入浴サービスなど

包・与薬」をあげた者は70.8%にのぼるが（前出表55），これらは減らしたい業務の上位にあがっている。「入居者の健康状態の把握」については，費やしている時間の多い業務上位3つまでにあげた者は84.7%であるが（前出表55），増やしたい業務としても上位にあがっている。多くの看護職は，薬の分包・与薬や医療処置におわれるのが，ホームの看護職の本来のあり方ではなく，もっと入居者と人間的な触れ合いを持ち，主体的に健康管理業務を担って行きたいと考えていることがわかる。

なお，「入院・通院の付き添い」が減らしたい業務の上位にあがっているのは，看護職員数が少なく，かつ通院に時間がかかるため，通院の付き添いをすると他の入居者が放置されてしまうこと，また通院する本人にとっても通院は負担であることなどから，施設内医療の充実により通院を減らしたいとの思いがあることによると考えられる。

表57，58は，実際に最も多くの時間を費やしている業務別に，減らしたい業務，増やしたい業務をみたものである。どんな業務を減らしたいか，増やしたいかは，ある程度現実の業務実態を反映しているが，現実がどうであれ，増やしたい業務のトップは「入居者との会話」である。

減らしたい業務，増やしたい業務として上位にあがっているものは，回答者の属性や立場による差はあまりないが，細かくみると若干の違いがある。「日常的な医療処置」を減らしたいとする者および「レクリエーション・リハビリテーションへの参加」を増やしたいとする者の比率は，年齢が低いほど

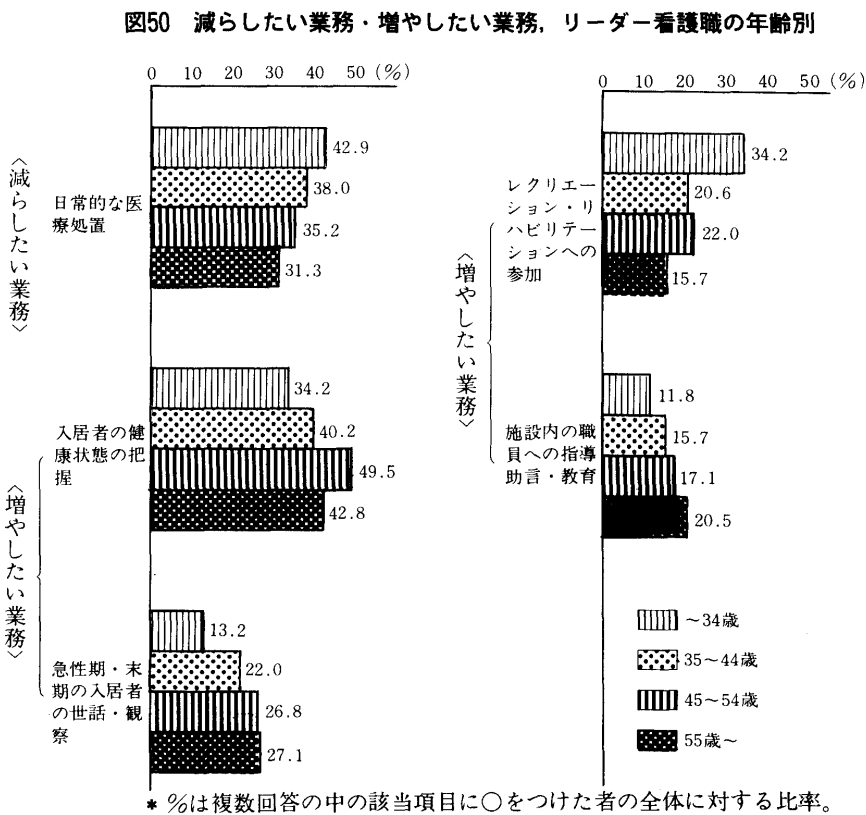


表57 減らしたい業務〔複数回答——上位3つ〕、費やす時間の最も多い業務別

減らしたい業務 費やす時間の多い業務	入居者の健康状態の把握	薬の分包・与薬	日常的な医療処置	医師回診時の診療介助	入院、通院の付き添い	急性期や末期の入居者の世話、観察	生活 活動 援助
入居者の健康状態の把握	11 (4.4)	185 (74.6)	75 (30.2)	21 (8.5)	150 (60.5)	9 (3.6)	22 (8.9)
薬の分包・与薬	2 (1.7)	106 (88.3)	39 (32.5)	9 (7.5)	78 (65.0)	4 (3.3)	15 (12.5)
日常的な医療処置	5 (1.6)	250 (81.7)	135 (44.1)	28 (9.2)	189 (61.8)	18 (5.9)	33 (10.8)
生活 援助	0 (0.0)	28 (66.7)	10 (23.8)	4 (9.5)	28 (66.7)	1 (2.4)	7 (16.7)
入居者との会話	0 (0.0)	2 (50.0)	2 (50.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
記録、申しおくり、打ち合わせ、カンファレンス	0 (0.0)	14 (66.7)	5 (23.8)	2 (9.5)	11 (52.4)	2 (9.5)	0 (0.0)
計	18 (2.4)	585 (78.9)	266 (35.9)	65 (8.8)	459 (61.9)	34 (4.6)	77 (10.4)

表58 増やしたい業務〔複数回答——上位3つ〕、費やす時間の最も多い業務別

増やしたい業務 費やす時間の多い業務	入居者の健康状態の把握	薬の分包・与薬	日常的な医療処置	医師回診時の診療介助	入院、通院の付き添い	急性期や末期の入居者の世話、観察	生活 活動 援助
入居者の健康状態の把握	84 (29.7)	0 (0.0)	9 (3.2)	14 (4.9)	7 (2.5)	68 (24.0)	34 (12.0)
薬の分包・与薬	70 (53.8)	1 (0.8)	4 (3.1)	3 (2.3)	4 (3.1)	25 (19.2)	17 (13.1)
日常的な医療処置	162 (48.1)	2 (0.6)	5 (1.5)	10 (3.0)	4 (1.2)	90 (26.7)	73 (21.7)
生活 援助	28 (63.6)	1 (2.3)	2 (4.5)	3 (6.8)	0 (0.0)	9 (20.5)	3 (6.8)
入居者との会話	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	0 (0.0)
記録、申しおくり、打ち合わせ、カンファレンス	11 (50.0)	1 (4.5)	2 (9.1)	1 (4.5)	1 (4.5)	3 (13.6)	3 (13.6)
計	356 (43.4)	5 (0.6)	22 (2.7)	31 (3.8)	16 (1.9)	196 (23.9)	130 (15.8)

多い。年齢が高くなると、「入居者の健康状態の把握」、「急性期や末期の入居者の世話・観察」、「施設内の職員への指導」を増やしたいとする者の比率が高くなる（図50）。また生活指導員の下に置かれて

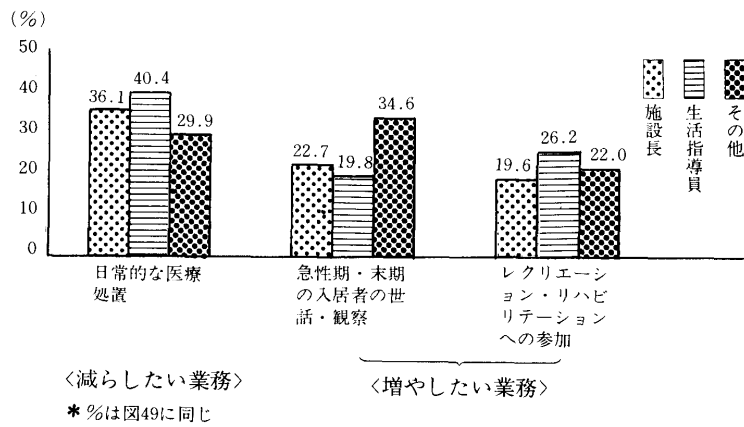
1990年調査 特別養護老人ホームにおける保健医療と看護

レクリエーション・リハビリテーションへの参加	入居者との会話	家族への対応、外部機関との連絡調整	在宅福祉サービスへの参加	記録, 申し込み, 打ち合わせ, カンファレンス	施設内職員への指導	看護職員自身の研修	その他	計
22 (8.9)	0 (0.0)	35 (14.1)	22 (8.9)	41 (16.5)	7 (2.8)	5 (2.0)	5 (2.0)	248 (100.0)
10 (8.3)	0 (0.0)	12 (10.0)	5 (4.2)	21 (17.5)	3 (2.5)	2 (1.7)	7 (5.8)	120 (100.0)
32 (10.5)	1 (0.3)	30 (9.8)	15 (4.9)	49 (16.0)	6 (2.0)	5 (1.6)	10 (3.3)	306 (100.0)
8 (19.0)	0 (0.0)	7 (16.7)	2 (4.8)	2 (4.8)	1 (2.4)	1 (2.4)	3 (7.1)	42 (100.0)
0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
1 (4.8)	0 (0.0)	2 (9.5)	2 (9.5)	9 (42.9)	0 (0.0)	3 (14.3)	2 (9.5)	21 (100.0)
73 (9.9)	1 (0.1)	86 (11.6)	46 (6.2)	123 (16.6)	18 (2.4)	16 (2.2)	27 (3.6)	741 (100.0)

レクリエーション・リハビリテーションへの参加	入居者との会話	家族への対応、外部機関との連絡調整	在宅福祉サービスへの参加	記録, 申し込み, 打ち合わせ, カンファレンス	施設内職員への指導	看護職員自身の研修	その他	計
75 (26.5)	212 (74.9)	15 (5.3)	33 (11.7)	46 (16.3)	49 (17.3)	161 (56.9)	0 (0.0)	283 (100.0)
27 (20.8)	95 (73.1)	7 (5.4)	10 (7.7)	26 (20.0)	19 (14.6)	57 (43.8)	0 (0.0)	130 (100.0)
57 (16.9)	260 (77.2)	9 (2.7)	35 (10.4)	60 (17.8)	60 (17.8)	154 (45.7)	1 (0.3)	337 (100.0)
9 (20.5)	30 (68.2)	3 (6.8)	5 (11.4)	7 (15.9)	6 (13.6)	18 (40.9)	0 (0.0)	44 (100.0)
1 (20.0)	4 (80.0)	2 (40.0)	2 (40.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
6 (27.3)	18 (81.8)	2 (9.1)	1 (4.5)	1 (4.5)	3 (13.6)	9 (40.9)	0 (0.0)	22 (100.0)
175 (21.3)	619 (75.4)	38 (4.6)	86 (10.5)	141 (17.2)	138 (16.8)	401 (48.8)	1 (0.1)	821 (100.0)

いる看護職は、「日常的な医療処置」を減らしたいとする者、「レクリエーション・リハビリテーションへの参加」を増やしたいとする者の比率が他と比べ高い(図51)。

図51 減らしたい業務・増やしたい業務、リーダー看護職の直属上司別



3) 残 業

看護職の残業時間は表59のとおりである。残業理由としては、「入居者の病状悪化時や末期の入居者の医療・看護」をあげるところが最も多く、次いで「入院・通院の付き添い」、「日常業務が勤務時間内で終わらない」の順である(表60)。

表59 看護職の残業時間*

な し	過去1年間で最も多かった月		過去1年間で最も少なかった月	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
5 時間未満	341	38.8	329	37.3
5 ~ 10	234	26.6	67	7.6
10 ~ 15	113	12.8	26	3.0
15 ~ 20	59	6.7	12	1.4
20 時間以上	76	8.6	8	0.9
無 回 答	58	6.6	88	10.0
計	881	100.0	881	100.0

*1人あたり平均。残業手当の対象とならなかった時間を含む

表60 看護職の残業理由 [複数回答-上位3つ-]

理由	人数	割合 (%)
入居者の病状悪化時や末期の入居者の医療、看護	812	93.9
入院・通院の付き添い	470	54.3
入院・死亡などに伴う家族への対応・関係者への連絡	345	39.9
研修会・行事・会議など	189	21.8
日常業務が勤務時間内で終わらない	371	42.9
その他	58	6.7
計	2245	259.5
有効回答施設数	865	100.0

看護職が最も多くの時間を使っている業務として「生活援助」をあげた施設、および「薬の分包・与薬」をあげた施設では、残業理由として「日常業務が勤務時間内に終わらない」をあげる率が他と比べて高い(図表略)。また、看護職員1人あたり入所定員別にみると、残業理由に「入院・死亡などにとまなう家族への対応、関係者との連絡」をあげる比率は入所定員が多いほど高く、「行事・研修会・会議など」をあげる比率は入所定員が少ないほど高い。他の理由については差がない(図表略)。